

北九州市立大学 都市政策研究所ニュース



都市政策研究所 専任教員異動のお知らせ

北九州市立大学都市政策研究所の専任教員につきまして、伊藤解子教授が2014年3月末をもって退職いたしました。その後任として、宮下量久准教授が2014年4月に着任いたしました。

退職にあたって

元・都市政策研究所 教授 伊藤 解子

日頃、来し方を考えることの少ない私ですが、退職を機に振り返ってみると、いろいろな仕事の思い出が蘇ってきます。

建築・都市計画を学び大学卒業後、民間で17年間、様々な地方自治体の都市計画関連業務に携わりました。なかでも思い出深いのは合併前の静岡市と清水市の広域都市計画プランづくりです。実際の都市の変容と都市計画をできるだけ整合あるものにしていくという試みでしたが、多様な視点が求められたその経験は関心領域と仕事領域の拡がりにつながりました。

地元北九州市に戻り1992年から12年間在職した(財)北九州都市協会では、ルネッサンス構想のもとで次々に進められたプロジェクトに関連する数多くの業務に係わることができました。都市の全体像を描く都市計画マスタープランもあれば、歩道の段差ひとつひとつをチェックする都心のバリアフリー計画もあり、方法や手法も様々な仕事を経験できました。

2006年に着任した都市政策研究所でも、市の総合計画(基本計画)の評価などやり甲斐のある仕事や研究に携わることができました。

以上、自身のことばかり書き連ねてしまいましたが、思い出は尽きません。最後に、寄せられたご厚情に深謝するとともに、都市政策研究所の発展を祈念して筆を置きます。

新任の御挨拶

みやした ともひさ
都市政策研究所 准教授 宮下 量久

4月から都市政策研究所に着任しました。これまでは、東京にある民間シンクタンクに所属し、国や地方自治体のあり方について提言活動をしてきました。たとえば、「道州制」の財政制度を検討したところ、消費税が地方の自主財源になれば、九州は財政的にほぼ自立できる、という結論を得ています。また昨年には、スポーツ庁の設置形態をまとめた報告書(「スポーツ庁の設置形態に関する研究」)を作成しました。2020年の東京五輪の開催決定を受けて、スポーツ庁は2015年に設置される見込みです。ただ、Jリーグのクラブ運営などを見ても明らかのように、スポーツは地域振興と密接に関わっています。スポーツや地域の活性化には、国の財源や人材、権限を地方へ移譲する観点も必要であることを報告書には記しました。

これらの研究を通じて、「地域のことは地域で考える」という地方分権は実現すべきである、と考えています。正直に打ち明けますと、首都圏を離れてこれまで暮らしたことがなかったため、地方の実情を知らないことに少し後ろめたさを感じていました。これからは、北九州市が直面する人口減少などの問題を分析し、その解決策を提言することで、地域の活性化に貢献して参ります。多くの方々との交流や地域の歴史文化との触れ合いを楽しみにしています。宜しく願いいたします。

小倉都心のイメージ向上に寄与する要因（2）

都市政策研究所 教授 神山 和久

はじめに

小稿は、「都市政策研究所ニュース」季刊第 62 号（2012 年 10 月 1 日）に記載した内容の続きであることをまずお断りしておく。以下の内容は、都心来街者が感受する好ましい小倉都心イメージとは何かを探った結果の一部報告である。

1. 市内高頻度来街者でみた小倉都心のイメージを規定する要因

ここでは、市内居住者のうち小倉地区に週 1 回以上訪れる高頻度来街者を対象として、前回と同様にステップワイズ重回帰分析によって解析した。女性の世代別にみる考察結果から、都心イメージ形成に寄与する要因に何か特徴がみられたのであろうか。

（表 1）に示した影響力（β 係数）の高低に着目してみよう。結果では、都心への来街頻度が高い市民層（愛顧度が高い男女全体）が表明する小倉都心の潜在的な“強み形成要素”、つまりこの地区全体のイメージを向上させる要因として寄与度が高いのは、「ぶらぶら歩いて楽しいまち」がトップであった。この項目

は 3 層の女性世代区分でみても、いずれも影響力（β 係数）が有意水準 1%（**）で高く析出されている。つまり、都心イメージ向上に寄与する最もプライオリティが高い“まちの姿”と解すべきである。時間消費型レジャー志向の来街者ニーズが強く反映されたものであろう。次に指摘されるのは、「高齢者や障害者などにやさしいまち」の寄与度の高さも印象的である。バリアフリーは言うまでもなく街の装置とし不可欠だが、レスト・スポットなどの充実が都心イメージの向上に好影響を及ぼしてくる。以下、「広域から人が集まる魅力的なまち」「住むのに便利で快適なまち」などが登場している。これらは、市内居住の消費者全体でも寄与度が高いイメージ項目であった。その意味では、“強み”となりうるポテンシャルである。これに加え、順次「娯楽施設が充実している」、「街並みがおしゃれ」「長時間滞在しても飽きがこないまち」などの寄与が目立っており、これらが相乗的に都心全体のイメージ向上の要因群となっている。

表 1 都心イメージの規定因分析結果（高頻度来街者 - 女性・世代別）

	市内居住者の小倉地区に対するイメージ									
	高頻度来街者		女性高頻度来街者		高頻度で来街 20-30代女性		高頻度で来街 40-50代女性		高頻度で来街 60歳以上女性	
	β 係数	判定	β 係数	判定	β 係数	判定	β 係数	判定	β 係数	判定
1 広域から人が集まる魅力的なまちだと思う	0.16	**	0.14	**	0.25	**				
2 名所、旧跡などがあり歴史・文化のあるまちだと思う	0.06	*	0.09	*			0.11			
3 ぶらぶら歩いて楽しいまちだと思う	0.18	**	0.15	**	0.18	**	0.21	**	0.34	**
4 子どもから大人まで全ての世代が楽しめるまちだと思う										
5 飲食店や映画館など娯楽施設が充実していると思う	0.10	**	0.09	*			0.18	**		
6 夜の賑わいがあるまちだと思う									0.21	**
7 街並みがおしゃれだと思う	0.10	**	0.14	**	0.18	**				
8 長時間滞在しても飽きがこないまちだと思う	0.08	*	0.10	*			0.23	**		
9 お店の人の威勢がよく、活気があるまちだと思う										
10 ワクワク、ドキドキ感のあるお店が多いと思う										
11 住むのに便利で快適なまちだと思う	0.14	**	0.18	**	0.21	**			0.34	**
12 景観が美しいまちだと思う	0.06						0.11			
13 欲しいものが何でも揃うまちだと思う										
14 イベントなどが盛んに行われているまちだと思う					0.13	*				
15 公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	0.08	**	0.09	*						
16 電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う									0.15	*
17 医療機関が充実しているまちだと思う	0.05						0.14	*		
18 子どもを連れて歩きやすいまちだと思う	0.08	*	0.09		0.15	*				
19 高齢者や障害者などにやさしいまちだと思う	0.16	**	0.16	**	0.11		0.19	**	0.21	*
定数項	-0.37	**	-0.29	*	-0.19		-0.22		-0.64	*
サンプル数	570		330		128		128		65	
修正済決定係数	0.71		0.71		0.66		0.74		0.77	

*: 有意水準5%

** : 有意水準1%

高頻度: 週に1回以上来街する層

2. 長時間滞在や回遊性を高めるための“仕掛けづくり”

別稿で指摘したが、都心のイメージを規定する要因は、市内居住の消費者では「高齢者や障害者などにやさしいまち」「ぶらぶら歩いて楽しいまち」といったイメージが、市外居住者では「広域から人が集まる魅力的なまち」「公共交通機関が充実している」「ワクワク、ドキドキ感のある店が多い」といったイメージが上位の要因であった。また、前出の高頻度来街者に限定した結果でも、ほぼ同様の要因が都心全体のイメージに強い影響を与えるという結果である。注目されるのは、高頻度で来街し「愛顧度が高い」40～50代女性の結果である。この層における都心全体のイメージに強い影響を与える要因は、他の世代とは異なった要因が析出されている。しかもその要因の数が多いことも重要な指摘だ。(表1参照)とくに、「娯楽施設が充実している」「長時間滞在しても飽きがこない」「景観が美しい」「医療機関が充実しているまち」などが、他の年代では析出されない40～50代女性固有の要因である。また、女性にとって男性40～50代と共通する要因は、「長時間滞在しても飽きがこないまち」であった。つまり男女ともに40～50世代のニーズは、都心地区に長時間滞在し回遊する消費者像として浮かぶのが印象的。“強み”となる潜在要因である。長時間の都心滞在と回遊の楽しみは、この地区での消費需要にも大きく貢献するものと考えられるが、一方で、市内居住の消費者全体では、「夜の賑わいがある」「ワクワク、ドキドキ感のある店が多い」「イベントなどが盛ん」といったイメージが市外居住者よりも弱いことも否めない。これらは、従来から“弱み”の顕在化要因でもあった。ただ近年の「賑わいづくり」の推進施策、つまりサッカー競技場計画、漫画ミュージアムや総合病院の北口オープンなど、これら都心回遊の“仕掛け”が目白押しとなったことはイメージ好転に大きく貢献している。

3. 傘がいない「まちなか」づくりは、都心イメージ向上にも寄与

周知のように、北九州市はつとに“実験都市”としてさまざまな分野で先陣を歩んできた。それは、工業化という近代の曙の担い都市だったことはもちろん、終戦後の傾斜生産の指定都市として製鉄業の隆盛と沈滞、そして公害克服。今は環境都市へ再生と変換の地歩を固めるべく様々な政策を展開している。そのなかで、低酸素社会と地域エネルギー政策推進の試みとして、小倉駅ペDESTリアンデッキに「太陽光パネル」

が設置されつつある。近い将来、小倉魚町商店街へのアクセスも「傘をささずにラクラク」ということになるだろう。筆者にとっても「30年来、待望久しかった事業」が叶うことになる。環境にやさしい「太陽光パネル」が、都心地下街の代用として「まちなか」のストリート・ルーフ機能を発揮して欲しいものである。



写真1 小倉駅ペDESTリアンデッキ「太陽光パネル」～完成したコレット側



写真2 小倉駅ペDESTリアンデッキ「太陽光パネル」～あと少しー魚町銀天街側

おわりに

以上、都心のイメージ向上のためには、賑わいやドキドキ感のある店舗の出店・誘致や各種イベント開催などに効果があることが分かった。加えて、足もとの商圈インナーシティ居住者、とりわけ高頻度で来街し「愛顧度の高い」40～50代の滞在時間を一層延ばすことが必須条件である。そして、「ぶらぶら歩いて楽しいまち」が体感できる“普段着の装置”が都心イメージ向上のカギを握ることも浮き彫りにされた。最後に、「まちなか」では、傘がいない方が良い。

事業日誌（2014年1月～3月）

■研究会、調査など

- ・【経営指導】ベトナム・ハイフォン市（1/14～18、2/9～13）
- ・【研究会】関門地域共同研究運営委員会（3/20）
- ・【調査】インドネシア・ジャカルタ市、シンガポール（3/24～28）
- ・「2013年度地域課題研究」、「関門地域研究」、「都市政策研究所紀要」のとりまとめ及び発行 → 右欄トピック①

■講演・シンポジウムなど

- ・【講演】北九州市立年長者研修大学校穴生学舎「ベトナム事情」（1/8）
- ・【講演】筑後地区市町村社会教育委員研修会「自分も周りも楽しみながら社会課題改善をめざす「協働」に向けて」（うきは市、1/24）
- ・【シンポジウム主催】「北九州市立大学都市政策研究所 ギラヴァンツ北九州アーカイブ」開設記念シンポジウム（北九州市立大学 北方キャンパス、3/17） → 下欄トピック③

■報道（専任教員のコメント掲載・放送など）

- ・毎日新聞、2/7、筑豊面「田川市 自治基本条例審議へ 市民検討会議が発足」
- ・NHK、3/17、ニュースブリッジ北九州、ニュース 845 北九州 「ギラヴァンツ北九州関連施設が大学に」
- ・Jリーグ公認ファンサイト J's GOAL、3/18、J 2 日記「北九州：大学に情報集積拠点オープン」

※お知らせ

- ・本年4月1日付の本学事務局の組織改正により、都市政策研究所の事務所管担当が「国際・地域交流課」から「地域・研究支援課」へと変更になりました。電話番号等については変更ありません。

トピック ②

「都市政策研究所 研究報告会」開催のお知らせ

トピック①で御紹介した2013年度の研究成果の一部について御報告する「研究報告会」を開催します。ご参加いただけますと幸いです。詳細は研究所 Web サイトに掲載します。

- 日時： 2014（平成26）年4月23日（水）14～16時
- 場所： 西日本総合展示場新館 315会議室（小倉北区）
- 報告予定者（順番未定）： 石塚教授、吉村教授、南准教授、廣川講師（基盤教育センター）
- お申し込み： 都市政策研究所事務局（本ページ最下段ご参照）

トピック ③ 「北九州市立大学都市政策研究所 ギラヴァンツ北九州アーカイブ」を開設

2014年3月17日、「北九州市立大学 都市政策研究所 ギラヴァンツ北九州アーカイブ」を開設しました。この機能は、ギラヴァンツ北九州および関連する都市政策に関する出版物・資料等（基本的に印刷物を対象）を体系的に収集・保管し、その歴史・記録を現在に発信するとともに将来に伝承していき、ギラヴァンツ北九州と地域の関わりの学術的・文化的拠点を北九州市立大学に形成して、地域活性化への貢献および関連研究の促進をめざすことを目的としています。

当面の公開時間は、月～金曜 9:00～17:00 となっております。お気軽にお立ち寄り下さい。



トピック ①

2013年度地域課題研究、紀要等を発行

2013年度に都市政策研究所で取り組んだ地域課題研究、関門地域共同研究について、2014年3月にとりまとめを行い、成果を刊行しました。また、『都市政策研究所紀要』第8号を発行しました。地域課題研究は4/23（水）に研究報告会を開催します（→トピック②）。※関門地域共同研究は6/25（水）に報告会開催【刊行物の概要】※いずれも2014年3月発行

■『2013年度 地域課題研究』

- ・北九州市民の住宅・居住地の選好性に関する調査（伊藤解子）
- ・地方都市におけるフットパス導入による地域活性化の検討と課題（内田晃）
- ・地域活性化のツールとしてのフットパス観光—公共性を有した地域空間のオープンアクセス化を目指して—（廣川祐司）
- ・北九州市立大学生の大学・学部を選択要因と満足度に関する調査（鈴木優香）
- ・イノベーションを担う人材の幸福度（吉村英俊）

■『「地域づくり」に関する調査研究』

- ・生活感に関連する要因—生活のゆとり感や社会関係の認知、地域活動への参加との関連性—（石塚優）
- ・地域子育て支援拠点における相談のあり方について（池田佐輪子、岩丸明江）
- ・行動経済学による「消費者力」の涵養（1）～「生活を守る経済学」講演シナリオを通じて～（神山和久）

■『北九州におけるスポーツを活かしたまちづくりの課題と展望』

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に関する北九州市民の意識（南博）
- ・地域スポーツを対象としたメディアによる地域振興とその課題（上田真之介）
- ・[講演概要] Jリーグクラブの資料アーカイブの意義と課題～愛媛プロスポーツアーカイブズの実践を踏まえて～（天野奈緒也） ほか

■『関門地域研究』 vol.23

※うち、北九州市立大学側執筆分

- ・横断的に見る女性の就業形態とゆとりの変化（石塚優）
- ・広域連携および道州制の社会的注目度合いの変化と政権交代の影響：関門地域への影響可能性の観点から（南博）

■『都市政策研究所紀要』 vol.8

- ・北九州市の産業観光の課題（伊藤解子）
- ・ドイツにおけるカーシェアリングサービスの比較考察（内田晃）
- ・ベトナム・ハイフォン市の中小企業の育成—友好協力協定締結から第I期草の根技術協力事業まで—（吉村英俊）
- ・他者と自己の関係や居住地域の捉え方と全体的生活満足感の関連性について（石塚優）
- ・集客低迷期のプロスポーツクラブのスタジアム観戦者実態と課題～2013年ギラヴァンツ北九州スタジアム観戦者調査結果から～（南博）

[編集・発行]

公立大学法人

北九州市立大学 都市政策研究所

〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4-2-1
Tel: 093-964-4302 Fax: 093-964-4300
E-mail: toshiken@kitakyu-u.ac.jp
URL: <http://www.kitakyu-u.ac.jp/iurps/>

NEWSLETTER No.68

April 1, 2014

INSTITUTE FOR URBAN
AND REGIONAL POLICY STUDIES,
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU,
KITAKYUSHU CITY, JAPAN